

団体名

公益財団法人
浜松国際交流協会

多文化共生のまちづくり促進事業

ジャンル

事業費総額

1,170 千円

災害対策

事業名

在住外国人当事者による多言語災害ボランティア養成事業

特徴

在住外国人当事者が企画運営する余地を作り、災害時対策や防災に対して主体的に関わる自覚を高める

事業のポイント

◇在住外国人当事者で主体的に災害時や防災事業に関わる人材を育成する。

◇外国人コミュニティにおいてリーダー的な役割を担っている人を主な対象とすることで影響力を大きくする。

◇参加者の中から企画・運営に関わるリーダーを選び、事業に当事者の視点を入れるとともに、災害時多言語ボランティアとしての自覚を高めてもらう。

◇研修修了後、災害時多言語ボランティアとして登録してもらう。

事業の背景・目的

◇「浜松市災害時多言語支援センター」協定締結後、実際に活動するボランティアの養成が急務。

◇在住外国人当事者に中心的にボランティアを担ってもらうと、より効果的に言語や文化の違いによる現場の課題・ニーズに対応できる。

◇在住外国人当事者の視点を大切にした事業運営を行い、外国人リーダーには支援者としての自覚を高めてもらう。

事業の概要

■メインプログラム

【第1回】講義「浜松市地域防災計画・災害時多言語支援センターについて」

内容：浜松市における防災の取組み等前提となる知識について 参加者：34人

【第2回】出張研修「静岡県地震防災センター」研修先：静岡県地震防災センター

内容：南海トラフ地震などについて 参加者：34人

【第3回】ワークショップ「地域の自治会役員と避難所運営ゲーム（HUG）体験」

内容：避難所運営ゲーム（HUG）を自治会役員と行った。その後、静岡県西部危機管理局に質問に答えていただき、避難所運営のヒントを学んだ。

参加者：30人（その他、自治会役員23人 合計53人）

■現場研修

【第1回】入野地区避難所体験に参加 会場：入野協働センター体育館

内容：自治会主催の避難所体験に参加。東日本大震災時に外国人が避難所で過ごした際の映像を住民とともに鑑賞。その後、外国人リーダー参加者が住民の間を回っておしゃべりをしながら交流を図った。

成果：外国人リーダーが自発的に住民の間を回っておしゃべりをするという行動をとり、友好的な交流の輪が広がった。日本人住民の中には、外国人の多く住む地域にもかかわらず、挨拶くらいの関係でこんなにおしゃべりしたことはなかった、楽しかったという感想を言ってくれた人もいた。

参加者：8人（その他、地域住民約100人）

【第2回】浜松市発達医療総合福祉センターの防災・福祉避難所宿泊体験「障がいをもつ子と家族のためのサバイバルキャンプ&防災ワークショップ」に参加

会場：浜松市発達医療総合福祉センター

内容：福祉避難所宿泊体験、防災ワークショップ「イザ！カエルキャラバン」など

成果：福祉避難所という存在について学ぶことができた。医師・看護師などに通訳などとしての外国人ボランティアの効果に気づいてもらった。

参加者：5人（その他、センター利用者、医師・看護師・ボランティア等スタッフ 合計約100人）

【第3回】遠州病院での災害時訓練に参加

会場：遠州病院、遠州鉄道「遠州病院前駅」、アクト通り

内容：遠州灘を震源とするマグニチュード8の大規模地震が発生したと想定し、遠州鉄道が脱線するなど多数の負傷者が出たと想定。その中に外国人負傷者として外国人に参加してもらい、通訳として外国人リーダーに参加してもらった。

成果：遠州病院、遠州鉄道、地域自治会、浜松市消防局との広範囲の連携が初めてできた。災害時多言語ボランティアの存在を知ってもらうことができた。

参加者：16人（その他、病院関係者、自治会関係者、遠州鉄道関係者、ボランティア約100人）



静岡県地震防災センターにて



遠州病院との連携による災害時訓練

事業実施における工夫点・事業の成果等

◇参加者 44 人 うち修了者 36 人 → 「災害時多言語ボランティア」として HICE に登録

(ポルトガル語 14 人、タガログ語 5 人、中国語 3 人、スペイン語 3 人、インドネシア語 9 人、ベトナム語 1 人、英語 1 人)

◇Facebook グループ 「SOS HICE ボランティア」をたちあげ、修了者が登録。

◇多言語防災アプリ「SOS HICE」の IOS 版の更新。Android 版を作成。災害時多言語ボランティアにアプリをダウンロードしてもらった。

◇病院等との連携体制の構築にあたっては、訓練時のみならず、通訳紹介時などの平常時から良い連携体制を構築しておくことが、災害時の連携へと繋がる。また、地域自治会との連携がとれていたことも、大きな病院との連携に繋がった。



7 人のリーダーが企画について議論

今後の課題・将来に向けての展望等

・定期的な研修が非常に大切。今後は、年間 3 回の定期研修を企画する。案としては、①「浜松市災害時多言語支援センター立ち上げ訓練」、②避難所運営訓練(自治会や災害時ボランティアとの連携で開催)、③遠州病院の災害時訓練に参加などを行う。

・特に、少数言語(ベトナム語、タガログ語、インドネシア語、英語)などについては引き続き新しい災害時多言語ボランティア候補の人向けに広報が必要。



自治会役員と一緒に避難所運営訓練

事業担当者のふりかえり

- ⇒ この事業は、外国人当事者コーディネーターが中心になって企画・運営することで、参加者も含め、外国人当事者の視点を大切にすることに重点を置きました。企画会議を重ねることで国を超えて仲間意識もでき、災害時多言語ボランティアとしての自覚も高まったと感じています。
- ⇒ 災害時に大切なのは日頃からの人間関係といいますが、重要なのは、今後、この関係を大切に、訓練を継続していくことだと考えています。